

神田川（東京都）

現在私の日常生活の中に川はない。自転車で十分ほど通学路とは逆の方向に行けば善福寺川があるが、毎日動いている範囲の中にはないと言っていい。しかし八年前まで暮らしていたところでは、毎日川の上を渡って小学校に通っていた。そこでこれを機に数年ぶりにその橋を訪れ、川の様子を見に行ってみた。



神田川の記憶

実のところこのレポートを書くにあたって初めて川の名前を母に聞いて認識したのだが、私が毎日「ししまあ汚い川だな」と思いながら渡っていたその川はなんと神田川であった。歌や話にはよく聞いていた名前だが、私の記憶の中のあの川の名前だとは思えず、よそよそしい感じさえしてしまう。

自宅から最寄駅である江戸川橋までの途中にあったその川は通学の行き帰りに必ず通っていた。店もない通学路の中では小学生の私にとってもっとも面白いスポットだったと言える。というのも日々変化のあるものといえばその川くらいしかなかったからである。そのため毎回欠かさず橋の上から川を覗き込んでいた記憶がある。下りられるような川ではなかったのと、下りる術もなかったのでその川の記憶といえば上から覗き込んでいる図しかない。水位のメーターを参考にすれば、比較的常に浅かった水面までの橋からの距離は約7メートル程度である。

川を覗き込んでいたのにはいくつか理由があり、純粹に川をしげしげと見るのが面白かったこと、鯉が泳いでいるのを探したこと、鳥がいないかどうか探したことが挙げられる。流れはかなり遅く、干上がっているときには水が止まっているのかと勘違いしたくらいだった。ゴミこそなかったものの水の色はあまりきれいではなく、黒い鯉の魚影がどうにか見えるくらいであったように思う。また昔から鳥が好きであったため、その橋から見かけた鳥のことは覚えている。鯉よりも見かける頻度はずっと低かったので、鳥を見た日はなんとなくラッキーな気分さえしていた。多く見かけた順に、セキレイ、カワウ、カモ、サギであった。セキレイはいくつか種類を見かけたが、姿が小さすぎてはっきりと種類を断定するのは難しかった。カワウもよく見かけた方で、潜水する様子を学校からの帰り道に飽きずに何十分も見ていたことがある。鶺鴒の話は知っていたが、実際に自分の目で見るとはなかなか楽しかった。潜ったまま遠くへ泳いでいってしまったのかと思いつつ長い

時間待っていると、思わぬところから浮上してくるので飽きることはなかった。しかし何の魚を獲っていたのかは未だに謎のままである。カモに関しては数羽の群れや、親子を見かけることがあった。マガモかカルガモがほとんどだった。サギに至るとなかなか遭遇度は下がり、年に一、二度見ることができるといえるか、という程度で、少し記憶もあやふやになるのだが、確かシラサギ、ゴサギ、アオサギを見たように思う。暗い色の川辺にシラサギが立っていると、なぜか掃き溜めに鶴という言葉思い出させる光景だった。

水位メーターは歩道の反対側の岸壁についていたのでほとんど見ることはなかったが、平均していつも水位は低かった。夏の暑い時期にはかなり水が減り、雨の後はいつものうってかわって茶色に濁った水が上まで迫ることがあった。

今思い返してみると、その川は子供のころの私には不気味な存在であった。橋の上を歩いているときも、川を覗いているときも落ちたらどうしようと思っていたし、雨の後の増水した川は、普段の流れているのか流れていないのかわからないくらいの姿からは想像もつかないほど様変わりしていて恐ろしかった。何よりすぐ脇の高架とあいまって流れの遅い濁った水の色が活気のない街をいっそう暗くしていたことが苦手だった。

しかし同時にその川を覗くのは通学時の楽しみでもあった。誇張ではなく、一瞥もくれずに橋を渡ったことはなかったのではないかと思う。小学生時代の通学時の思い出といえ、一番思い出されるのがあの川である。

橋

残念ながら江戸川橋に暮らしていたのはちょうど小学校の六年間のみで、家族もその土地に縁があるわけではないため神田川の過去を調べるのは **WebPage** ということになってしまった。ここ一世紀ほどの年表を見ていて気がついたのが、橋の架け直しの多さである。そこでようやくはつとしたのだが、川あるところには橋があるのだ。もちろんそれは橋の渡せる幅の川に限られてしまうが、それでも渡せる距離であれば誰かが橋をかけるのである。実際私が使っていたのは主に華水橋という橋であった。ホームページによればこれは昭和八年につくられたものだという。つまり私が毎日橋を渡っていたころ、既にその橋は七十歳近かったことになる。そう思うと日頃何気なく通っていた小さな橋もひっそりと歴史を持っていて、私もその上を渡ってきたたくさんの人々の一人だったのだと感慨深くなった。

神田川と善福寺川

先日これを機に数年ぶりに江戸川橋へ行ってみたが、橋と岸壁のコンクリートが一部改装されていた以外に大きな変化はなかった。水は相変わらずどんよとした色をしており、

のろのろと流れていた。

底を見たことはないが周りはコンクリートで舗装されているし、魚と鳥が辛うじてちらほらいるだけで自然を感じたことはあまりなく、悲しいことにむしろ「水質汚染」の話題を聞くたびに真っ先に思い浮かべるのは今も昔も何よりもまずその川である。私の中で「川」といえばその川だったので、中学入学時に引っ越した今の土地（杉並区）で善福寺川を初めて見たとき、川底が見えるほど水が澄んでいたことに心底驚いた記憶がある。実は今でも見るたびに感心している。母は「あんたが連呼するほどあの川（神田川）は汚くないよ」と言ってきたが、この二つの川を比べるとかなり異なった性質をしていると思う。善福寺川の周りは公園が続き、桜や銀杏がとても綺麗だ。春は花見客で賑わい、普段でもいろんな人々がのんびりと散歩をしていたり、私自身時折母と自転車でかけてはお茶や弁当を楽しんでいたりする。これに対し私の知っている神田川では、確かに桜の咲く公園こそあったものの私がそこへ行ったことはほとんどない。私はどちらの川も一部分しか知らないため、安易に比べてはいけないと思っているが、私の望む川の姿を聞かれば善福寺川を挙げるだろう。しかし今回、その善福寺川が下流で神田川に合流すると知ってさらに驚いた。あの澄んだ水も最終的にはかつて私が毎日眺めていた濁り水になってしまうのかと思うと切ないものがある。神田川も小学生の私にとって大事な存在であった。名前を改めて知ろうとも思わないくらいに当たり前の存在だったのだろうと思う。だが一言で川の説明をするよう言われると、悲しいことに「汚い」という印象になってしまう。後に続く世代が私と同じ印象を持つことのないよう願うばかりである。



<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/ikimono2/ikimono/kanda/kanda.htm>

<http://mediaport.on.coocan.jp/kandagawa/bridges/hanamizubashi.htm> （私が通っていた橋。私が知っているのは再建される前の緑色の橋である）

http://homepage1.nifty.com/KISHINO-H/fukkou_ugan/kandagawa/hanamizu.htm

最後に、このホームページはどうやら個人的なものらしくアカデミックではないのだが、なぜあの橋の下に鯉がやたらと集まっていたのかという私の小さな疑問を思わぬ切り口で解いて笑わせてくれたので記しておく。

<http://www.alles.or.jp/~kusu/hato.html>